

★10『HEAVEN』 表紙デザインは羽良多平吉。エロ自販機で売られていたのだが、エロ目的で買った人は激怒したであろう超カルト雑誌！モチロン数字で廃刊！

★11『百葉箱』可愛い佇まいの中は温度湿度計の他、自記観測器が置かれ、結構精密である。

★12『気象学入門』／銀谷国衛著（東京経済）。

例えば、気象庁というのも実際は国家公務員だから、確かに入るのも難しいだろうしある程度職業的には待遇のいい、いいお勤めだけど、それとは別に気象庁に勤めている人がですね、帰りに焼き鳥屋で一杯飲んで上司の悪口とかさ、なんかドロドロしたことなんかやってなさそーな感じがするわけですよ。実際はそうじゃないのかもしれないけどさ、なんとなく、空とかそういうのをさぁ～、日々観察している人はさぁ、そういうこととは無縁な感じがするわけですね。例えば南鳥島沖測候所とか、最果ての離島の測候所とかあるわけじゃないですか。今のところ僕はそういう人生ではなかったのだけど、そういう場所にある程度の永い期間、自分をおいてみたいという、そういうイメージがあるんですね。

そして、そんなある日、ブラッドベリの★13『霧笛』のような光景に自分が遭遇するのではないかと…あはは。

-『霧笛』ってどんな話なんですか？

短い作品 ですから、読んでみられたらいい！。かのレイ・ブラッドベリ、珠玉の短編作品群の中でも1印象的な名作として知られてます。何十年も前に呼んだのに、未だ感動醒めやらない。およそヌース的ではないんですが、#抒情性豊かな美しくも切ない作品です。ああ、今でも映像が目に浮かぶようだ…灯台が…海が…。ウウー。

-だ、大丈夫ですか？ストレンジさん！

ス、スミマセン。不覚にもワタクシ取り乱してしまいました。コホン！えーと何の話でしたっけ あっそうそう、ブラッドベリでしたね。う～ん、ブラッドベリは今日は止めましょう。巨匠ですから、短時間では…失礼というものです。別の機会に。一言だけにすれば、レイ・ブラッドベリは成るべく若いうちに読むことをお勧めします。精神が瑞々しい時にこそ繋がる世界だと。繊細な感性が必須です。30代以上～となると、もうなかなか繋がらないかも知れません。

NHKのラジオ第二放送にね。気象通報とかいって、TVでは放送されない詳しい気象情報が流れているんですよ。この放送全体の雰囲気はなんともいい。落ち着いた静かな声で淡々と気象データ、数字をアナウンスしてるだけなんですけど、「…南大東島、東南東の風、風力5、天気、くもり、1025ヘクトパスカル、温度24度。…」とか「…次に気象庁海洋ブイおよび船舶の報告をお知らせします、漁業気象…カムチャッカの南、北緯49度、東経127度には、1006ヘクトパスカルの低気圧があって、毎時30キロで東北東に進み、温暖前線は、北緯37度、東経174度、からさらに37、180、にのび…」、っという感じで20分位続くわけです。これを聞くととにかく、ばぁ～と遠くの風景がすぐそこに見えるようで、「ああ、あそこは波が立っている、風がけっこうあるんだなぁ～」とかね。そういうのをぼーっと想像するのがなんか楽しいんですよ。

地球のシューマン波は以前の7.8Hz.から8.5Hz.～とかなり高くなっているんだよね。もしかしたらこの放送は、表向き気象通報を装いつつ、実はこのシューマン共振数や気象、つまり“ヒトの意識？”を日々進化調整しているマントラ（真言）なのではないかと秘かに思ったりしているよ。

観測データをアナウンスすることそのものが、その日の地球気象を決めているのではとね。アナウンサー本人も知らないわけ。自分が本当は何をやっているのを。あの、意識がセンタリングしていくような声の抑揚、音質、テンポといったらもうー。しかも毎日数回決まった時刻に地味なエリアでひっそりと放送するあたり、もう絶対そうとしか思えないと（笑）。まぁ、物好きな方は一度お聴きあれ。